

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立中津高等学校

学校番号 5208

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 人間尊重の精神を基調として、生徒一人一人との心のふれあいを深め、信頼と愛情に基づく教育実践に努める。 (2) 勤労生徒としてのたくましい心身と強い責任感を高揚し、民主的社会の担い手としての調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	① 基礎学力と生きる力を身に付けることで、自信をもって自らの人生を切り拓くことのできる生徒 ② 協同を通して他者との信頼関係を築きながら、一歩前に踏み出せる生徒 ③ 様々な参加機会を活用して自らの役割を理解し、家庭・地域・社会の担い手となれる生徒	① 一人一人の興味・関心・能力・経験等に合わせ学びの楽しさを育む授業の工夫と基礎学力の指導 ② 少人数でアットホームな学校生活の中で自己効力感や信頼関係を育む学校文化の維持・発展 ③ 様々な学校行事や就労体験を通じた自己有用感の育成	① 自らの課題に対して4年間努力して前向きに取り組もうという意思のある生徒 ② 仲間や教師など他者との信頼関係を築き、自らの可能性を広げたいという生徒 ③ 卒業後の進路を見据え学業と就労の両立を図り、学校行事に積極的に参加しようとする生徒

3 評価する領域・分野	◇教育課程・学習活動		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・保護者評価では、学校経営の項目で高い評価を受けた。また評価がC、Dの項目は非常に少なかった。しかし例年と比較し、「わからない」という回答が大幅に増加し、20%を超えた。 ・生徒評価では昨年度と比べ評価の高い項目が倍増し、評価の低い項目は減少した。		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇基礎学力と生きる力の育成 生徒一人一人の学習能力を的確に把握し、教材の精選と授業の展開の工夫を図り、基礎学力の定着を図る。		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・毎日実施する職員連絡会での授業交流 ・少人数授業の良さを生かした授業展開		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 教材を精選するとともに、「わかる授業」の実践を目指します。 (2) 職員連絡会で個々の生徒の学習意欲や取組状況を継続的に確認し、個に応じたきめ細かな学習指導を実践します。 (3) 学習達成度の低い生徒に対して「学び直し」の機会を設けます。 (4) 学習の意義や目的を理解させ、身に付けた知識・技能を活用できる、より良い学習指導を目指します。 (5) ICT教育機器の活用を推進して生徒の学びの充実を図ります。 (6) 新学習指導要領の実施に合わせて新一年次生より「観点別評価」を実施します。具体的には、ルーブリックを活用して学力の三要素（資質・能力の三つの柱）を評価します。また、学びの地図ともなるシラバスを年度当初に提示・説明します。		(1) 指導法を工夫し、授業改善を図ることができたか。 (2) 職員の共通理解と日々の実践が生徒の学力の向上につながったか。 (3) 個々の生徒の学力に応じた学習指導ができたか。 (4) 生徒一人一人が、学習の意義や目的を理解し、身に付けた知識・技能を活用することができたか。 (5) ICT教育機器を活用することで、学ぶ意欲や学習効果を上げることができたか。 (6) 生徒一人一人が、観点別評価を通して学びの目的や目標を理解することで、学力や学習意欲を向上させることができたか。	

9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評 価
・指導法の工夫・改善を継続的に実施し、ICTの活用、ユニバーサルデザインを意識した授業に取り組んだ。 ・職員連絡会での授業交流では、個々の生徒の学習状況を全職員で共有できた。 ・学習の意義を考えさせる授業の実践に取り組み学習内容の定着を図った。	① 指導法を工夫し、授業改善ができたか。 ② 生徒の情報を共有し、個々の生徒の学力の向上に生かされたか。 ③ 学習の意義を理解し、学習内容を活用することができたか。	A B C D A B C D A B C D
12 成果 ・課題	○毎日の職員連絡会での授業交流を通して、生徒の学習状況を把握するとともに実態に即した「わかる授業」の実践と学習内容の定着を図ることができた。 ○授業内で「学び直し」の機会を設けるとともに、全教科でICTの活用や生徒に合った学習プリントの作成、活用等を通して個々の生徒の特性や学力に応じた学習指導を実施することができた。 ▲キャリア教育を念頭に置きながら、生徒の主体的、意欲的に学習に向かう姿勢を身に付けさせ、確かな学力の定着を図る必要がある。	総 合 評 価 A B C D
13 来年度に向けての改善方策案 ・生徒が主体的、意欲的に学習に取り組む姿勢を身に付けさせるためにも、「わかる授業」を継続的に実施するとともに、教科内容への興味関心を喚起し、より魅力ある授業を目指し授業研究に努める。 ・授業のユニバーサル化を推進するとともに、電子黒板やタブレットを活用した教材の開発とICT機器を利用した授業を積極的に実施する。 ・新学習指導要領への移行を目指し、教科横断型授業やアウトプットとインプットの調和のとれた授業展開を試みる。 ・新学習指導要領の施行に基づき評価法についての研究を行う。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月9日

【意見・要望・評価等】 ・1人1人、個に応じたきめ細かい指導をしていただき、ありがたく思っている。引きつづき生徒の支援をお願いしたい。 ・ボランティア活動をもっと積極的に取り入れていただきたい。人のために何かを行うということがボランティアではなく、個人個人がそれぞれ興味のあることを行っていくことがボランティアの精神であると教えていただきたい。その活動からの学びがいずれ卒業後の社会観の醸成につながるはずである。
--

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立中津高等学校 学校番号 5208

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 人間尊重の精神を基調として、生徒一人一人との心のふれあいを深め、信頼と愛情に基づく教育実践に努める。 (2) 勤労生徒としてのたくましい心身と強い責任感を高揚し、民主的社会の担い手としての調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	① 基礎学力と生きる力を身に付けることで、自信をもって自らの人生を切り拓くことのできる生徒 ② 協同を通して他者との信頼関係を築きながら、一歩前に踏み出せる生徒 ③ 様々な参加機会を活用して自らの役割を理解し、家庭・地域・社会の担い手となれる生徒	① 一人一人の興味・関心・能力・経験等に合わせ学びの楽しさを育む授業の工夫と基礎学力の指導 ② 少人数でアットホームな学校生活の中で自己効力感や信頼関係を育む学校文化の維持・発展 ③ 様々な学校行事や就労体験を通じた自己有用感の育成	① 自らの課題に対して4年間努力して前向きに取り組もうという意思のある生徒 ② 仲間や教師など他者との信頼関係を築き、自らの可能性を広げたいという生徒 ③ 卒業後の進路を見据え卒業と就労の両立を図り、学校行事に積極的に参加しようとする生徒

3 評価する領域・分野	◇生徒指導（教育相談）、特別活動、保護者・地域などとの連携		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・保護者評価では、生徒指導、安全指導・健康管理の項目で高い評価を受けた。また評価がC、Dの項目は大変少なかった。しかし例年と比較し、「わからない」という回答が大幅に増加した。 ・生徒評価では昨年度と比べ評価の高い項目が倍増し、評価の低い項目は減少した。		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇健全な生徒の育成 生徒一人一人をよく理解し、個に応じた積極的な教育相談に努め、自己効力感や自己有用感の醸成と自主的・自律的な生活態度の育成を図るとともに生徒の進路希望の実現を目指す。また集団や社会の一員としての自覚を深め、安心・安全な学校生活を送るための安全教育の徹底を図る。		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・毎日実施する職員連絡会での授業交流及び生徒情報交換 ・懇談、教育相談の計画的な実施 ・発達障がい、DV、SOSの出し方、不登校、いじめ等についての職員研修会の計画的な実施 ・学校行事での保護者や地域との連携		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 職員連絡会で個々の生徒の学習や生活に関する情報を共有し、生徒理解と生徒指導に生かします。 (2) 発達障がい、DV、SOSの出し方、不登校、いじめ等についての職員研修会を計画的に行い、職員のスキルアップを図り、指導体制の強化に努めます。 (3) 懇談（二者、三者）と教育相談を年間計画に位置付けるとともに、日常的に生徒への声掛けや個々の生徒に応じたきめ細やかな指導に努めます。 (4) 生徒や保護者のニーズに応じ、一人一人に対してきめ細やかな進路相談を行います。 (5) 施設設備の安全管理や交通安全の指導及び見守りを積極的に行い、自他の命を大切にする教育を推進します。 (6) 学校行事を通して保護者と生徒との協同活動を行い、家庭及び学校との信頼関係を深めます。また文化祭では地域住民や同窓会の参加を呼びかけ、学校を理解してもらえるよう働きかけます。		(1) 職員の共通理解を個々の生徒に対する指導に生かすことができたか。 (2) 生徒を理解し、支援するスキルを高め、指導体制の強化ができたか。 (3) 生徒一人一人の共感的理解のための情報収集ができたか。さらに、自主的・自律的な生活態度の育成を図ることができたか。 (4) 生徒一人一人がそれぞれの進路目標を達成できたか。 (5) 安全を推進する活動と命を大切にする活動により、生徒の意識を高めることができたか。 (6) 学校行事について保護者の理解と協力が得られたか。生徒が仲間や教員との協働を通して学校生活に自信を持ち、学校やクラスに対する帰属意識の向上や家族との信頼関係の向上につながったか。また保護者や地域の方々に本校の生徒や教育内容を理解してもらえたか。	

9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評 価
・職員連絡会での情報交換を毎日実施し、全職員が情報を共有し、生徒支援を行った。 ・懇談、教育相談を計画的に実施した。 ・感染症拡大防止のため、家庭訪問と食に関する行事の実施を自粛した。	① 個々の生徒の支援に生かすことができたか。 ② 生徒の情報を共有し、日頃の指導に生かすことができたか。 ③ 保護者や地域との連携を深めることができたか。	㊤ B C D ㊤ B C D A ㊤ C D
12 成果 課題	○職員連絡会や職員研修会により生徒理解や生徒支援を積極的に推進し、共通理解のもと全職員で生徒の支援を行うことができた。また多様な生徒が在籍する中で、特別に支援が必要な生徒への対応について、全職員で情報を共有し、個別の支援を推進した。 ・○文化祭や人権教育映画鑑賞など3年ぶりに保護者にも公開し、生徒の発表を共有できた。 ▲例年実施しているPTA参加の学校行事と全戸家庭訪問について、感染症拡大防止の観点から実施を自粛した。	総 合 評 価 ㊤ B C D
13 来年度に向けての改善方策案 ・より良い生徒支援のために、学校生活の様子、進路希望及び懇談の内容などを、担任が代わっても情報にアクセスできるシステムを構築し、継続的に支援できる仕組みを作る。 ・学校行事やPTA行事については感染症の動向を見極めながら、生徒・保護者の安心・安全を確保して実施することにより、相互の連携を深めていきたい。		

Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月9日

【意見・要望・評価等】 ・キャリア教育をもっと積極的に推進してほしい。地元の企業は協力する意思があり、インターンシップの受け入れを依頼すれば、どの企業も歓迎してくれるはずである。 ・恵那市内で令和5年度からデュアルシステムを行う学校がある。生徒が年間を通して毎週恵那市内の企業でインターンシップを行う。大変良い取り組みである。中津高校ももっと外に出ていくべきである。
